

御所湖隨想

H23年11月 No.3 1

ミサゴとブラックバス

ミサゴは魚を獲るタカとして古来より知られており、主に海岸に生息しているのですが、内陸部の湖沼や広い河川などでも見られ、近年御所湖や四十四田ダムでも営巣が確認されています。

獲物を見つけるとホバリング（素早く翼を羽ばたかせて空中で静止）し、狙いを定め急降下し、水面近くで脚を伸ばし両足で獲物を捕らえます。



御所湖でも時々ホバリングしている姿を見かけます。さて、営巣するためには豊富な食料が必要なのですが、獲物となる魚は何なのでしょう？水面近くでのんびりと泳ぐ魚とは・・・？それが‘ブラックバス’なのだそうです。在来魚を食べてしまうので問題になっていますが、ミサゴにとってはブラックバスこそ貴重な食料であり、ダム湖は餌場なのです。本来の生態系ではないのですが、自然界のたくましさを示してくれる事例だと思います。

一方、新たに問題視されているのは、‘カワウ’という鳥です。御所湖にも黒っぽい集団を見かけますが、この鳥はミサゴと違い、水中に潜って魚を捕らえ、特にアユも食べてしまうことから、釣り人から嫌われており、害獣駆除の対象にもなっております。御所湖は餌となる魚が豊富にあるということの証しなのですが…。生態系が豊かだということではないのが残念です。

また、今年はアメリカシロヒトリが大発生しました。盛岡市内ではいろいろな木々の葉が食い荒らされましたが、御所湖ではほとんど被害がありませんでした。毛虫などの幼虫を捕食する野鳥やスズメバチ、アシナガバチなどが多くいるためでしょうか。そう言えば、最近スズメの姿を見かけないという話もあります。住宅の高気密化などにより巣作りに適した隙間がなくなったことにも原因がありそうです。自然界のバランスは微妙なようです。少しずつ変化してきているのかもしれませんが！



11月1日の風が凪いだ瞬間に現れた景色です。水面に映った繫大橋はちょっとした風にも揺らいでしまいます。

